



# オニオン物語

---

オニオンリング

---

これは、私ことオニオンリングと、あるアイドルとの  
長い長いストーリーである。

## 出会い

---

あれは、紅白が終わった直後だった。

妻に、AKBが見たいと言われ、渋々、秋葉原に行った。

当時はひまわり2ndだったが、私はメンバーを全然しらなかった。

唯一、ファイテンションデパートという番組で出ていた、篠田麻里子だけ知っていた。ちなみに、みいちゃんも出ていたが、あんまり覚えてなかった、、、

で、劇場で公演が始まった。最初は、お遊びだろ？と思ってたのだが、少し気になりはじめた。

案外、いいんやん。

二回目くらいから、ちょっと気になりはじめた子がいた。

妻に、あの子は誰かと聞いても、わからなかった。

他の子も、気になってた、佐藤（由）

、高橋となど。しかし、あの子だけなんか違うものを感じた。

あの子の名前を知りたい。

公式サイトメンバーの写真を見て、あの子の名前を調べた。そこには、

松原夏海

と書いてあった。

【続く】

文責 オニオン物語

## ガチャ

---

この子は「松原」という言うのか。。  
僕は少しずつ彼女を気になりだした。

そこから何度か、公演を見に行った。  
僕は、松原夏海さんの記憶のジレンマに何度も魅了されたが、たまにノロという名前の人が踊っていた。その日は少しテンションが低かった。

そして、数ヶ月。  
奇跡的に、僕はB3rd パジャマドライブ公演の初日の公演を当てた。

一番印象残っているのは、  
「秋元康」  
だった。それぐらい、まだ僕にとってAKBは始まってなかった。  
物語はまだ始まってない。(Story isn't Begin yet.)

その程度だったのが、2008年3月頃。  
しかし、2008年4月から物語が始まるのである。

それは、ガチャというものだ。  
今は、もう存在しないがスタッフが1つ200円だかで売ってる、ガチャガチャを手売りしていて、中に当たり券やハズレ券が入っていた。  
圧倒的にハズレ券が多いのであるが、当然当たり券もあり、そこに2ポラ券やその他の得点の券があった。

僕はよくシステムがわからず、3つ買った。  
「はずれ」「はずれ」そして最後の1つに、よくわからない券が入っていた。  
「ボウリング」と書いてあった。

【続く】

「ボウリング」の券をインフォに持っていった。  
ほっぺが真っ赤な人は、「後日連絡しますので、電話番号を書いてください」といつてきたので、書いて帰った。

そして、後日電話があった。  
ボウリングをやりますので、来て下さいと。

よくよくメンバー発表を見ると、僕の好きな「松原夏海」も居た。  
驚いた。話ができる、会いに行けるアイドルってのは本当なんだ！ボウリングできるアイドルなんだと、初めてその時把握した。

僕は、わくわくして1時間も前に会場である、ボウリング場に向かった。隣にあるおっばいパブなど目もくれず。

そこにはたくさんのヲタが居た。  
ルールがわからず、チーム分けがされる。何故か僕は「ヤッカイ」と呼ばれる者たちのチームに入った。「奥」「小林」「秋元」推しの人たちの集まりだった。  
奥推しは何度か劇場で奇声を発していた彼だ。覚えていた。

で、メンバーが順番に回って一緒にボウリングをするというイベントだった。  
tgskの説明の後にメンバーが入ってきた。

最初に佐藤由加理、川崎希が来た。  
佐藤由加理のスタイルの良さにやられつつ、ノゾフィスに話しかけられて、少し会話できた。  
ノゾフィス「どれぐらい（ガチャ）買ったんですか？」  
オニオンリング「3つなんですよ」  
ノゾフィス「えーっ」  
という他愛ない会話をしつつ、ちょっと可愛いなと思ってしまった。

そして、順番もかわり、僕達のレーンにやってきた。  
あの、松原夏海さんが。。。

【続く】

ボウリングのたまおきましょうか？

---

あの松原夏海さんだ。。

僕は、心臓が口から飛び出しそうだった。

いや、たぶん胃が飛び出そうだった。

同じレーンのヲタは、僕が松原夏海さんを好きなことを知ってるので、みんな話しかけるよって、言って譲ってくれた。

僕は、松原さんに言った。

オ「あのファンです、ジレンマ見てすっ、好きになりました」

松「あ、ありがとうございます（テンション低め）」

あっさりした反応に軽くショックを受ける。

最初に来た、川崎希さんの反応の良さとのギャップに僕は心が折れそうになった。

彼女は、ボウリングのたまをずっと抱えたままうつむいていた。

そこで、僕は

オ「ボウリングのたま、おきましょうか？」

松「いや、いいです」

僕の方も見ずに彼女は拒否した。

遠慮ではない、拒否だった。

僕は、本当に心がこの日折れた。

はっきりと憶えている。

そして、松原さんは別のレーンへと行った。

そのあとはあまり覚えてない。

唯一覚えてるのは、妻が推してる駒谷さんと10分ぐらいずっと2人で楽しく話したことだけだった

。

彼女は、優しかった。手紙を一度送ったことがあったのでその御礼や、小僧寿しの話とか。

そうして、松原さんとは良い思い出を作れなかった僕は、  
ダークサイド（推し変）への道に片足を突っ込もうとしていた。

【続く】

文責 オニオン物語

自分はこの子が好きだって思ってたが、冷たくされた。  
その時、優しくしてくれた子が居た。

だれだって、その優しくしてくれた女の子に行くよね。  
でも、そんなこといいのか。

この子だ！って感じたものはなんだったの。  
お前はひどいやつだ。浮気者だ。  
最低だ。

結局やりたいだけなのか。  
そういう男だ、結局は。

そんなことを一切かんがえず、ノゾフィスにメロメロになって、  
写真集イベントに行った。

書泉で並んだ。

俺は、がつついた。

しかし、ノゾフィスはつかれきって、対応が塩だった。  
俺はがっかりした。

そして、俺はまた松原夏海さん神単推しに戻った。

そして、俺は、いばらの道へ歩み出すことになる。

【続く】



## 生誕委員

---

生誕委員。

そういうのがあるらしいと、mixiのコミュニティで見つけて知った。

俺は、松原夏海さんだけしか居ないんだ。そう思い、僕はその生誕委員の集まりへと参加した。

集まったら、サッカーのユニフォームの格好をした人が居た。

これが有名なあの人か。声をかけたが、すごい怖かった。

何人か集まり、居酒屋へと移動した。

みんなで、顔合わせの飲み会になった。

前に座ってる人は、本当に初期のなつつみいを知っていた。

昔から、塩対応だって言ってた。塩か、たしかに塩だったと思った。

ノゾフィスもそこそこ塩だったけど、それ以上にボウリングの傷は少し癒えてなかった僕は、その塩というのがわかった。

でも、みんななつつみいのことすごく楽しそうに話す。

いいなあ、これが生誕委員か。来てよかったな。

それで、前に座ってる人が、ポラを見せてくれた。

なんだかんだいって、みんな一緒に写真とってるんだ。僕も、なつつみいと2ポラ撮りたい。そういう欲望が生まれてきた。

ああいいなあ、なつつみいのために生誕委員がんばろう。

そうして、解散した。

俺も、そのうち生誕委員とかやりたいな。その時は、そんなことが実現するなんて思ってなかった。

そして、生誕の日を迎えたが、仕事で行けずあっさり終了した。

最初の生誕は、メッセージカードのデータチェックと、塗り足し（専門用語）が足らずにPhotoshopで足したというそこそこの大役を務めた。

【続く】

文責：オニオン物語

## ファンレター

---

生誕祭も無事終わり、K4thも始まった。ということで、僕は変わらずなつつみいを応援し続けた。

そして、初めてファンレターを送った。もう、内容は今となっては覚えてない。ただ、自己紹介となんでファンになったかを書いただけだと思う。

その時は、自分のことなんて覚えて欲しいなって思ってなかった。ただ、応援してますってことを伝えたかった。

そのファンレターは半月書くのにかかった。  
どう書いていいのか本当に筆が進まなかった。

そして、ファンレターをかいて送った。  
当然、返事なんて来ない。当たり前だ。アイドルなんだから。

でも、昔、駒谷にファンレターを送ったことがあった。ファンレターというより、妻は公演行けないけど、元気にしているよって伝えるために。

そのことを覚えてくれてて、ボウリング大会で、手紙ありがとうっていつてくれた。  
そうしたことを、そのうち言ってくれる日を信じて僕は、たまに手紙を書こうと思った。

この当時は公演はまだ出せばそこそこ当たる時期だった。K4thはしかも、まさにKという公演だった。

しかし、何故かなつつみいが一皮剥けてないと感じた時期でもあった。でも、信じることにした。

この子が居たからAKBにハマったんだ。  
この子のファンが居なくなっても僕だけは最後まで応援し続ける。って思ってた。

そうした思いを胸に、特になんの目標もなく応援し続けた時期。

そして、夏の野音ライブを迎えるのであった。

【続く】

文責：オニオン物語

#今回は作者急病のため、「野音のすべて」は次回公開とさせていただきます

僕のAKB48ファンの歴史の中で、推し以外では忘れてはいけない子が居る。  
現在はSDN48の三期生でもあり、オリジナルメンバーである元チームAの駒谷仁美である。

妻がこの子を見たいということで、劇場に通うきっかけになった子でもある。  
妻はこの子の強烈にこの子を推している、一時期妻が体調が妊娠していることもあり、劇場に通えない時が続いた。その時に、僕は手紙を二度ほど送ったことがある。

そのことを、彼女はボウリング大会であったときに、手紙のことを覚えててくれて、ありがとう  
といってくれた。  
僕の中で、上位推しメンということにはならなかったけど、いい子だなんて、アイドルというか  
芸能人なのに、イキってないと思った。

ボウリング大会では、彼女がたまにモバメで送ってくる、小僧寿しについて語り合った。  
語り合ったといっても、うちも近所にあるんで、食べるんですよ。おいしいよね。って程度だ  
けど。

そして、2008年夏に妻は家を出ることになっていた。そして、最後の思い出に、駒谷と3ポラを  
撮ることになった。もちろん、ヤフオクだ。  
自引きで3ポラを引けるほど、僕の運は底をついていた。

そして、3ポラをもって、A公演に出かけた。

3ポラの時、妻はとてもうれしそうだった。もう最後なんだなと。これで終わりなんだと思いつ  
ながら撮影していた。  
そして、別れ際、僕は駒谷に「そろそろA5thだから、楽しみにしているよ」って伝えた。  
その時、駒谷は「うん、」って少し歯切れが悪かった。

その時、まさかあんなことになろうとは思っていなかった、、、

そして、3ポラを撮り終えて、写真の出来上がりを待っていた。その時、たまたま大江が顔を出し  
ていて、こっちに手を振ってくれた。  
当時、僕は大江の歌声やクマのぬいぐるみで乱暴に、脇にクマを投げる姿がかわいいと思っ  
ていた。少し、実は惹かれていた。

そして、また僕はダークサイド（推し変）へ足を踏み入れようとしていた、そんな僕に衝撃の事実が突きつけられようとしていた。

【続く】

文責：オニオン物語

## 野音のすべて

---

日比谷に野音がある。

名前は聞いたことはあるが、野音といえば大阪城野外音楽堂のことだと思ったが、日比谷らしい。

そんな感じで、野音ライブに行った。

当日、雨でとても寒かった。夏なのに寒いってどういうことだ。

俺は、キレ気味で見ていた。

ファミリー席に座っていったので、とても見やすい場所だったが、少し遠かった。でも、俺は目がいいのでまるで間近に居るように見えた。

そして、ライブははじまった。

今は亡き、なちのんが前説をする。ヤヤウケでスタートした。

ライブは盛り上がった。

しかし、雨の中おれはトイレを我慢して寒さで、膀胱が爆発しそうだった。

とうとう、俺はトイレに行った。その時に歌っていたは「ワッショイB!」だった。何が、ワッショイだ。俺は、トイレに行きたいんだ。

そして、帰ってきた。

しばらくすると、SKE48が出てきた。

そこで、既に卒業していた出口陽が居た。

俺は、リアルタイムでは見てないが、映像で見たことはある。

とても、歌がうまい子だった。

すこしヤンキーっぽい顔が俺は少し好きだった。

そして、突然の研究生の中西の移籍発表だ。

時代が動き始めるんだ、俺はそう感じた。

そして、無事、ライブは終了した。

新規の俺にとっては楽しかったが、もっと楽しめたと、今となっては反省している。  
雨の動物園で「ライオンちゃんー」って叫べなかった。その時の俺に、はっきり言える。  
「お前は松原推しとして失格だ」と。  
というようなことは、別に思わない。だって知らなかったんだもの。

そして、秋に向かう中で、色々な出来事が俺を襲おうとしていた。

【続く】

文責 オニオン物語

## 五人の卒業と大江朝美

---

僕は、会社から家に帰るために地下鉄に乗っていた。  
そこで、ある地下アイドル板を見ていたら、衝撃の文字を見た。

成田、戸島、中西、駒谷、大江卒業！！

どういうことだ。あの時、3ポラ撮ったときに、卒業するなんて言ってなかったじゃないか、、ひいちゃん。。

僕は地下鉄の中で泣き崩れた、、、

ということも特になく、ショックを受けただけだったんですが。

そして、NHKホールライブで卒業となることがわかった。。。

そのタイミングで、事務所が決まっていなかったおーいえを僕はとても心配していた。  
初めて、おーいえに手紙を書いた。実は、おーいえのことがとても好きだった。  
どことなく不思議なカンジで、不思議ちゃんで、まだ握手したことがなかったので、握手したいと思った。

そして、握手したときに僕の手紙のことを覚えてくれてた。

その時、僕は恋に堕ちた。

推し変したとかじゃなかった、恋をした。

僕は、大江朝美さんに恋をした。

本当に、彼女を好きだった。

でも、もうAKBとして応援できない、事務所も決まっていなくて不安だった。  
もう彼女を応援できないんじゃないのかって。

僕が彼女にできることはなかった。

ただ、最後のコンサートで「おーいえ」と叫ぶだけだった。

最後のコンサートは5人、白い衣装で可愛かった。。

みんな、色々と思う所はあったんだろうな、そんな最後だった。

ちなみに、おーいえはその後、アメブロを始めた。

そして、彼女とアメーバピグでふたりっきりでトークをしたことがあった。



これは妄想ではなく、本当だ。

僕は、そうして松原夏海さんを推しながらも、一人の女性に恋をした。  
二人を同時に愛すなんてできないって思ってた時期もあったけど、できた。。。

僕はなんて軽薄な男なんだ。  
そういう想いをいただきながら、ファン1年目を終了しようとしていた。

【続く】

文責 オニオン物語

## 僕とポラと松原夏海さん

---

2年目早々に僕に奇跡が起きた。

当時、セカンドライフというのがあった。一応今でもあるんだけど。

その中で、ガチャがあって、僕はそれを地味に買っていた。

そこで、僕は2ポラを当ててしまった。

僕は、迷わず劇場に連絡して、松原夏海さんと2ポラを撮りますと言った。

しかも、本名で申し込んだ。俺は、オニオンリングという名前よりも、本名を知ってもらいたいと思って本名を書いた。いや、嘘だ。嬉しすぎて、本名で書いてしまった。

しかし、生誕の飲み会の時に、なつつみいとポラは塩だと聞いていた。

僕はその前提を持った上で、挑むことにした。だから何があっても俺は泣かない。

そして、俺はなつつみいへのプレゼントを買った。僕は関西出身なので、京都風の雑貨屋で髪留めを買った。

彼女は喜んでくれるだろうか、、、「ださい！」って言って目の前で捨てないか、、、そんな不安と闘いつつ僕は買った。

そして、劇場に向かった。

公演終了後に、ポラの撮影が始まった。

番号が渡され、順番が来ると郡司に番号で呼ばれた。まるで、刑務所だ、そう僕はなつつみいという存在の刑務所に入った囚人だ。

囚人番号723だ。

そして、なつつみいが居た。

「あっ、こんばんわ！」って言ってくれたかどうか一切覚えてない。

そこには、居た。追い求めていた彼女が。ちょっと感動したよ。写真を撮っていいかな？

えっ、清水さんが撮ってくれる？しかも、ふたりっきりで。

それはそうさ、だって2ポラだから。

なつつみいが「どういうポーズで取る？」って言ってきた。

僕はもう頭がまわなかった。だから、清水さんに「なんかないっすかね」ってムチャぶりした。

清水さんは困った。悩んだ。もし、清水さんが劇場を辞めたのがこのことが原因だったら非情に

申し訳ないと考えている。

そして、相談の結果、僕が大好きな「メロスの道」の戦ってるポーズになった。

腕を組んでるように見える写真。でも、腕は組んでないけど、僕となつみいはこの瞬間、心の腕を組んでいた。腕を組みながら写真を撮られた。このポラが流出したら、なつみいは今流行の謹慎になるのだろうか。そんなことはない、写真に収められた2人はただのキモいファンとアイドル。そんな写真が流出しても、誰も謹慎されない。ハッピーな写真だ。

そんなかんじで、二人で最後の刻を迎えようとしていた。

出口までなつみいは来てくれた。彼女は僕、送ってくれるのだ。。。

そんな写真が撮られたら、彼女は謹慎にならないのか、、、不安で仕方なかった。

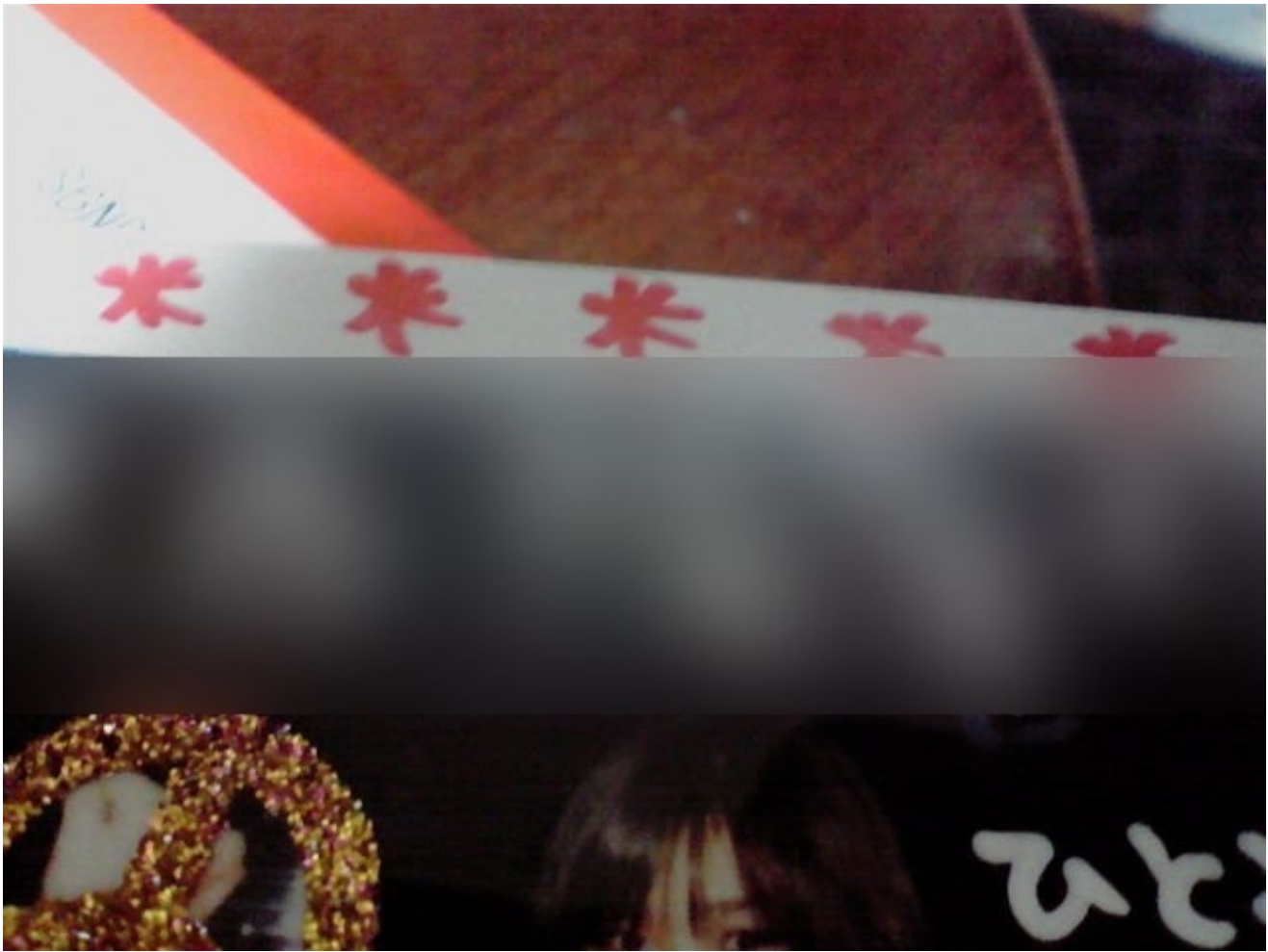
決定的な瞬間を撮られたくない、という想いから、出口で彼女に「じゃあね」といった。彼女はそこからついてこなかった。それでいいんだ。なつみい。それが君にとっての幸せだ。

この先、テレビドラマや朗読劇で主演、そして群馬で舞台をやる未来が存在するんだ。だから、ここでお別れだ。写真週刊誌に撮られたら謹慎か辞退だ。。。

そんなかんじで、彼女との2ポラが出来上がるまで待った。

その時間はとても長かった。

そして、届いたポラがこれだ。



これは俺のたからものだ。

そう思って、俺は劇場をあとにした。

【続く】

文責 オニオン物語

## チームB3rdの終わりとB4th初日

---

この時期は完全に僕は、AKBにはまっていた。  
全体にはまっていた。

そして、自分の中でプチブームがきていた。  
それはチームBだった。

僕はKヲタと自分で当時は言うておきながら、  
完全にチームとしてはBにハマっていた。

誰かってことはなかった。

いや、はるごんも好きだったし、たなみんも好きだった。実はちょっと早乙女も好きだった。実はなるっぺも好きだった。ぽっちゃりしてたし。まつゆきも好きだった。おっぱい大きかったし。みかちいも好きだった。本当に、みかちいは好きだった。彼女のピュアさはどこか、おーいえと似ている所があったと思う。

でも、全員が好きだった。もちろん、CinDyも。

とうとう、B3rd「パジャマドライブ」が終わりを告げようとしていた。2月だった。

僕は抽選に落ちただから。見れなかった。

でも、ほんとうに色々あった。

- 菊地：解雇。でも、研究生として復帰。（ただし、Bの舞台には未だ立ってないけど）
- 井上：卒業（しかも即日）
- 松岡：卒業
- 佐伯：怪我での長期離脱
- 早乙女：事実上の降格
- 野口：千秋楽直前に卒業発表

そんな感じだった。もう、盆と正月がっぺんにきたと言っても過言ではない。

そんなB3rdが終わり、すぐにB4th「アイドルの夜明け」が始まった。



僕は中に入った。

パジャマドライブも初日に入ったが、また入れるというのは幸せだ。

いきなり、楽器の演奏から始まるアイドルの夜明け。衝撃を受けた。

そして、そこに一人、かわいい子が居た。

あれは、内田真由美、、、、僕と彼女の物語はまた、のちの話。

そして、無事何事もなく終わったアイドルの夜明け。

楽曲はやっぱりBが好きだ。そう思った一日だった。